

モゴ
ンツ
ドホ
リス
アー
ンラ
までから



Divisionism
from
Van Gogh
and **Seurat**
to **Mondrian**

フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》(部分) 1888年 油彩/カンヴァス 64.2×80.3cm クレラー=ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

クレラー=ミュラー美術館所蔵作品を中心に

印象派を超えて 点描の画家たち

2013年 **10**月**4**日(金)～**12**月**23**日(月・祝)

新 THE NATIONAL ART CENTER TOKYO 国立新美術館 企画展示室1E [東京・六本木]

開催趣旨・美術館紹介

開催趣旨

19世紀末から20世紀前半のヨーロッパ絵画において色彩は、外界の事物を再現するという役割から次第に解放され、ひとつの表現として自立していきます。色彩の独立は、印象派の筆触分割に、その萌芽を見出すことができます。新印象派の代表的な画家であるスーラは、印象派の感覚的な筆触分割には飽きたらず、科学的な知識をもとに独自の点描技法を開拓しました。色彩を純色の小さな点に分解して描く分割主義は、フランスを超えてヨーロッパ各地に瞬間に広がります。そして、シニャックによる理論化にも後押しされて、抽象絵画の創設にも大きく貢献しました。オランダからパリに出たファン・ゴッホは、新印象派の技法に大きな着想を得て色彩を探求し、やはり点描を通過したモンドリアンは後年、三原色に分割された宇宙的な調和に満ちた抽象絵画へと到達したのです。

本展は、ファン・ゴッホの優れたコレクションで知られるオランダのクレラー＝ミュラー美術館の特別協力のもと、スーラ、ファン・ゴッホ、モンドリアンを中心とした、フランス、オランダ、ベルギーの画家たちによる色彩の探求を検証するものです。国内の所蔵機関の協力も得て一堂に展示される、油彩画、水彩画、素描、約90点にも及ぶ珠玉の作品を通じ、絵画の真髄ともいえる色彩の輝きを新たな目で捉えなおします。

クレラー＝ミュラー美術館



富豪アントン・クレラーの夫人だったヘレーネ・クレラー＝ミュラーが夫とともに1905年から1930年代初めまでに収集したコレクションを中核にしたこの美術館は、ベルギーの建築家ヴァン・ド・ヴェルドの設計により1938年、オッテルローにあるオランダ最大のデ・ホーヘ・フェーリュウェ国立公園の中に開館しました。スーラ、ピカソ、モンドリアン、ブランクーシなど近現代美術の名品を数多く所蔵しており、269点(うち油彩は88点)を数えるファン・ゴッホのコレクションはとりわけ有名です。南仏の街アルルのはね橋を描いた《ラングロアの橋》や《夜のカフェテラス》、サン＝レミ時代の《糸杉と星の見える道》などの代表作とともに画家の変遷をじっくりとたどることができます。野外には25ヘクタールにも及ぶ彫刻庭園があり、ロダン、ムーアから現代の作家に至るまでの彫刻作品を、豊かな自然のなかで鑑賞することができます。

ヘレーネが美術に関する教養を深めたのは、画家であり美術評論家でもあったヘンドリクス・ペトルス・ブレマーが裕福な階級の人々に向けて開いていた美術講座を通してでした。ブレマーは作品を歴史的な脈から切り離し、むしろ作品そのものから受ける美的感情を重視して、ファン・ゴッホをはじめ、スーラやシニャックといった画家たちを高く評価しました。彼の助言をもとにしてヘレーネは作品の購入方針を定め、驚くべき分割主義のコレクションを形成するに至ったのです。

Divisionism from Van Gogh and Seurat to Mondrian

クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に

印象派を超えて 点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで

2013年10月4日(金)～12月23日(月・祝)

休館日：毎週火曜日

開館時間：午前10時～午後6時

金曜日は午後8時まで(入場は閉館の30分前まで)

主催：国立新美術館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション

共催：クレラー＝ミュラー美術館 後援：オランダ王国大使館

協賛：損保ジャパン 協力：KLMオランダ航空

観覧料(税込)	一般	大学生	高校生
当日	1,500円	1,200円	800円
前売/団体	1,300円	1,000円	600円
オンライン限定 早割ペア券	2,000円(2013年7月1日(月)～7月31日(水)まで)		

※団体は20名以上 ※中学生以下無料 ※障がい者手帳をご持参の方と付き添いの方1名は無料
※前売券は2013年7月1日(月)から販売開始(前売券は10月3日(木)まで販売。10月4日(金)以降は当日券の販売)

チケット取り扱い

国立新美術館、展覧会ホームページ、ローソンチケット[Lコード:39602]、セブン-イレブン[セブンコード:023-687]、チケットぴあ[Pコード:早割ペア765-748、前売/当日765-740]
ほか主要プレイガイド(手数料がかかる場合がございます)

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO
企画展示室 1E (東京・六本木)

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
<http://www.nact.jp/>

- 東京メトロ千代田線 乃木坂駅
青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅
4a出口から徒歩約5分
- 都営地下鉄大江戸線 六本木駅
7出口から徒歩約4分

■お問い合わせ 03-5777-8600(ハローダイヤル)

展覧会ホームページ <http://km2013.jp/>

■プレスお問い合わせ

「印象派を超えて一点描の画家たち」展広報事務局(デイシス内)
〒106-0032 港区六本木4-8-7 六本木三河台ビル7F
Tel. 03-6863-3409 Fax. 03-5414-7966 E-mail. km2013@artplus-inc.com

巡回予定

【広島展】2014年1月2日(木)～2月16日(日) 広島県立美術館
【愛知展】2014年2月25日(火)～4月6日(日) 愛知県美術館

年譜

- 1874** ナダールの写真館で、いわゆる第1回印象派展が開かれる。クロード・モネ、カミーユ・ピサロ、アルフレッド・シスレー、ポール・セザンヌ、エドガー・ドガらが参加する。
- 1879** 第4回印象派展がオペラ座通り28番地で開かれる。モネ、ピサロらに加えて、ポール・ゴーギャンらが初参加する。
- 1881** オグデン・ルードの『色彩の科学的理論とその芸術および工業への応用』がアメリカ版初版から2年遅れてフランスで出版される。
- 1884** 第1回20人会展が開かれる。
アンデパンダン展の第1回展がパリで開かれ、サロンに落選した画家たちの作品が展示される。この展覧会にジョルジュ・スーラは、サロンに落ちた《アニエールの水浴》を出品する。またここで初めて、スーラ、ポール・シニャック、アンリ＝エドモン・クロス、シャルル・アングランら後の新印象派の画家たちが集う。
- 1885** ピサロがアルマン・ギョーマンのアトリエでシニャックと、またデュラン＝リュエル画廊でスーラと知り合い、点描に感化される。
シャルル・アンリが『ルビュ・コンタンポラン』誌に論文「科学的美学序説」を発表する。
- 1886** フィンセント・ファン・ゴッホがオランダから弟のテオを頼りにパリに出る。ピサロの尽力により、最後の印象派展である第8回展にスーラとシニャックが参加する。スーラの《グランド・ジャット島の日曜日の午後》が話題を呼ぶ。このときスーラは美術評論家フェリクス・フェネオンと知り合う。第2回アンデパンダン展にアングラン、クロス、シニャックらが出品し、スーラはふたたび《グランド・ジャット島の日曜日の午後》を出品する。フェネオンがブリュッセルの『近代美術』誌に「チュイルリーの印象派」を寄稿して、ここで初めて「新印象派の画家」という呼称を用いる。フェネオンが「チュイルリーの印象派」を収録した『1886年の印象派の画家たち』を出版する。
- 1887** シャルル・ブランが『デッサン技法の文法』を出版する。
第4回20人展にスーラが《グランド・ジャット島の日曜日の午後》を出品する。ブリュッセルまでシニャックもスーラに同行し、そこでテオ・ファン・レイセルベルへと知り合う。
ファン・ゴッホとシニャックが共同制作を行う。
スーラがファン・ゴッホと初めて出会う。
- 1888** アンリ・ヴァン・ド・ヴェルドが初めて点描の作品を試みる。
アンデパンダン展にスーラが《ポーズする女たち》と《サーカスの客寄せ》を出品する。
シニャックがアンリの色彩環を水彩で描く。
ファン・ゴッホが南仏アルルでゴーギャンとの共同生活を始めるが、確執の末にファン・ゴッホは自らの左耳を切り落とす。この「耳切り事件」により共同生活はわずか2ヶ月で破綻する。
- 1889** アンリが『色彩環—あらゆる補色とあらゆる色彩調和について、および対照、リズム、尺度の一般理論についての手引』を出版する。
ミシェル＝ウジェーヌ・シュヴルールの『色彩の同時対照の法則』(1839)がフランス革命100周年を記念して復刊される。
- 1890** アンデパンダン展にスーラが《シャユ踊り》と《化粧する女》を出品する。ファン・ゴッホが拳銃で自殺する。享年37歳。
- 1891** アンデパンダン展にスーラは《サーカス》を、シニャックは《フェネオンの肖像》を、クロスは彼にとって初めての点描による作品《H.P.夫人の肖像》を出品する。
スーラが死去する。享年31歳。
- 1892** オテル・ブレバンで新印象派の展覧会が開かれる。クロス、マクシミリアン・リュス、スーラ、シニャック、ファン・レイセルベルへらが出品する。
- 1893** ラフィット街20番地の画廊で新印象派の展覧会が開かれる。アングラン、クロス、リュス、ピサロ、シニャック、ファン・レイセルベルへらが出品する。
- 1894** ブリュッセルで20人会を引き継ぐ「自由美学」の最初の展覧会が開かれる。アナーキズムに加担していた罪でリュスとフェネオンが逮捕される。
- 1895** アンリが『形態の美学の追及—シニャックのデッサンと計算』を出版する。サミュエル・ピングがヴァン・ド・ヴェルドの協力を得て、ナビ派や新印象派のクロス、シニャック、ファン・レイセルベルへの作品をもってプロヴァンス通りにアール・ヌーヴォー画廊を開く。
- 1898** ベルリンのケラー&ライナー画廊で新印象派の展覧会が開かれる。これを機にシニャックの「ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで」が雑誌『パン』に連載で翻訳される。
- 1899** シニャックが『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』を出版する。デュラン＝リュエル画廊で印象派の大きな展覧会が開かれる。一部屋が新印象派に割り当てられ、アングラン、クロス、リュス、シニャック、ファン・レイセルベルへらが出品する。
- 1900** スーラの展覧会がフェネオンによって『ラ・ルヴュ・ブランシュ』誌編集部の一角で組織される。フェネオンは《アニエールの水浴》を、シニャックは《サーカス》を購入する。
- 1902** ピングのアール・ヌーヴォー画廊でシニャックの回顧展が開かれる。
- 1903** ドリュエ画廊で新印象派の展覧会が開かれる。ここでは後に、新印象派の画家たちの様々な個展、グループ展が開かれることになる(クロス、ジョルジュ・レメン、スーラ、シニャックなど)。
- 1905** アンデパンダン展でファン・ゴッホとスーラの回顧展が開かれる。アンリ・マティスが《豪奢、静寂、逸楽》を出品し、これをシニャックが購入する。ヘレーネ・クレラー＝ミュラーがヘンドリクス・ベトルス・ブレマーによる美術講座に出席しはじめる。
- 1908** ピート・モンドリアンが港町ドムブルフでヤン・トーロップと知り合い、初めて点描による作品を手がける。
- 1909** アムステルダム市立美術館で、セール・スポール、ヤン・スライテルス、モンドリアンで3人展が開かれる。
モンドリアンが神智学協会に入る。
- 1911** アムステルダム市立美術館でセザンヌを中心とした展覧会が開かれる。そこでセザンヌをはじめ、ジョルジュ・ブラック、パブロ・ピカソ、アンドレ・ドラク、ラウル・デュフィ、オディロン・ルドン、モーリス・ド・ヴラマンクらの作品が展示される。
モンドリアンがパリに移住する。はじめフェルナン・レジェ、次いでピカソらキュビズムの画家たちの影響を受け、線の要素を強調して画面の抽象化が急激に進む。
- 1912** ブレマーとヘレーネがスーラとシニャックを訪問し、各々の点描による作品を購入する。
- 1914** モンドリアンが水平線と垂直線で区切られた矩形の構成を試み、「海と埠頭」のシリーズを描き始める。この頃、モンドリアンがブレマーと出会う。
- 1917** モンドリアンが神智学協会を退会する。
テオ・ファン・ドゥースブルフが中心となって雑誌『デ・ステイル』が創刊される。そこにモンドリアンが論文「絵画における新しい造形」を寄稿する。
- 1921** モンドリアンが画商ロザンベールの助けをかりてパリで『新造形主義』を出版する。
- 1925** モンドリアンがワイマールのパウハウス叢書第5巻として『新しい造形』を出版する。
モンドリアンがファン・ドゥースブルフと決別する。

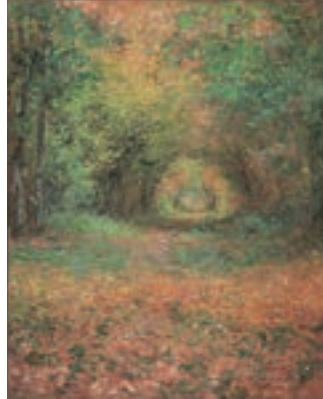
1章

印象派の筆触分割

1874年、のちに印象派展と呼ばれる初めての展覧会を開催したモネやピサロ、シスレーらは、陽光や風の影響を受けて刻々と表情を変える戸外の眺めを、自由な筆触で生き生きと描きました。彼らは、絵具をパレット上で混ぜて描くのではなく、さまざまな色彩の細かい筆触で画面を覆いました。印象派の画家たちは、筆触分割と呼ばれるこの斬新な描法によって、色彩の明るさを保ちつつ、見る者の網膜上で色が混ざって見える原理を利用したのです。個々の筆触が独立した印象派の作品は、伝統的な絵画の滑らかな画面とは異なり、絵具や色彩の力を強く意識させます。独特のリズム感をも感じさせる瑞々しい画面は、絵画が純粋な視覚の問題であることを強調しています。



1 クロード・モネ
《葉ぶき屋根の家》
1879年 油彩/カンヴァス 48.5×64.5cm
上原近代美術館



2 クロード・モネ
《サン＝ジェルマンの森の中で》
1882年 油彩/カンヴァス 81.0×65.0cm
吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)



3 アルフレッド・シスレー
《舟遊び》
1877年 油彩/カンヴァス 45.6×56.0cm
島根県立美術館

2章

スーラとシニャック 一分割主義の誕生と伝播

1884年5月から6月にかけて開催されたアンデパンダン展には、スーラ、シニャック、アングラン、クロスらが一堂に会しました。1886年の第8回印象派展ではピサロによってスーラとシニャックに最後の入室が与えられ、美術評論家のフェネオンによって彼らは新印象派と名づけられました。細かい筆触で描く点描の技法を特徴とする新印象派の画家たちは、印象派の画家たちと同じく積極的に戸外での制作を行いました。スーラはフランス北西部の港や海岸をモチーフとして柔和で穏やかな画面を創り出し、南仏に移り住んだシニャックとクロスは地中海の海岸で光と色彩との相互作用の探求に没頭します。こうした色鮮やかな点描による画面の構成は、フォーヴィスムへと受け継がれていくものでもありました。



6 ジョルジュ・スーラ
《グラヴリーヌの水路、海を臨む》1890年 油彩/カンヴァス 73.5×92.3cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



4 ジョルジュ・スーラ
《マフをはめた女性》
1884年頃 コンテ・クレヨン/紙 29.5×22.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



5 ジョルジュ・スーラ
《入江の一角、オンフルール港》
1886年 油彩/カンヴァス 79.5×63.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



7 ポール・シニャック
《ダイニングルーム、音楽作品152》1886-1887年 油彩/カンヴァス 89.5×116.5cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

3章

ゴッホと 分割主義

故国オランダで独自の絵画を探索していたファン・ゴッホは、1886年2月にパリに移住します。2年ほど続いたパリ時代は、この画家がモダン・アーティストへと変貌を遂げる形成期と位置づけられます。この時期、印象派はすでに世に受け入れられ、新たな芸術的潮流が生まれ始めていました。パリでファン・ゴッホは、次世代を担う才能豊かな画家たちと交流するなかで、スーラやシニャックからも影響を受けました。彼らの作品に接したファン・ゴッホは、1887年の前半に分割主義の技法に取り組みました。とりわけ補色の効果への着眼は、赤と緑や青と黄色などの対照的な色彩の効果を生かした、アルル時代の独自の様式へと展開していきます。



10

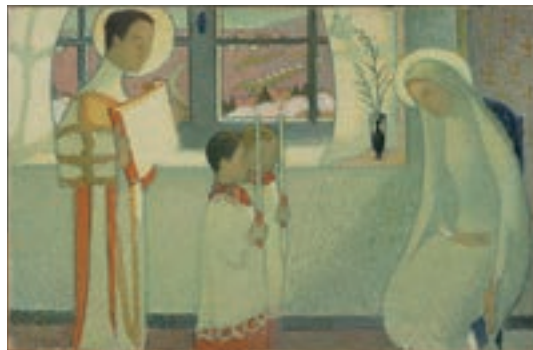
TOPIC ファン・ゴッホにとってのスーラとシニャック

ファン・ゴッホは、スーラの《グランド・ジャット島の日曜日の午後》が展示された第8回印象派展や、新印象派の作品が数多く出品された第2回アンデパンダン展を訪れたと推測されています。これらは、このオランダ人画家がパリに出た1886年に開催され、大きな反響を呼んでいました。ファン・ゴッホは、スーラの透徹とした理論には従いませんでしたが、「独創的な色彩画家」と高く評価していました。一方シニャックは、はるかに身近な存在でした。シニャックによれば、ふたりは1886年に画材屋タンギーのもとで出会い、1887年にはセーヌ河畔やアニエールでもともに制作もしました。シニャックは、アルルで入院していたファン・ゴッホを見舞うなど、その交流はパリ時代以降も続きました。

10 ファンセント・ファン・ゴッホ
《自画像》
1887年 油彩/厚紙 32.8×24.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



8



9

8 ポール・シニャック
《ポルトリュエの灯台、音楽作品183》
1888年 油彩/カンヴァス 46.0×65.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

9 モーリス・ドニ
《カトリックの秘蹟》
1891年 油彩/カンヴァス 27.0×41.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

TOPIC 分割主義の原理

1879年の第4回印象派展に衝撃を受けたスーラとシニャックは、印象派の自由で感覚的な技法にたいして、より科学的な技法を追求しはじめます。1886年に画家たちは、鮮明な絵具を用いた細かく分割された筆触による点でカンヴァスを埋めつくしました。並置された各々の色が見る者の網膜上で混ぜ合わせられるという視覚混合の法則、ある色が隣接するまわりの別の色に影響されて本来とは違った色に見えるという同時対照の法則など、色彩の効果に画家たちはきわめて意識的でした。画家たちは、フランスの化学者シュヴルールの『色彩の同時対照の法則』（1839年）をはじめとする色彩に関する学術的考察から、自らの画業の理論的な支えとして多くのことを学んでいたのです。



11 フィンセント・ファン・ゴッホ
《レストランの内部》1887年 油彩/カンヴァス 44.5×56.0cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



12 フィンセント・ファン・ゴッホ
《麦実のある月の出の風景》1889年 油彩/カンヴァス 72.0×91.3cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



13 ポール・ゴーギャン
《水飼い場》1886年 油彩/カンヴァス 59.5×72.5cm
島根県立美術館



14 アンドレ・ドラン
《コリウール港の小舟》1905年 油彩/カンヴァス 54.0×65.0cm
大阪新美術館建設準備室

5章

モンドリアン —究極の帰結

ハーグ派の影響を受けて写実的な絵画を描いていたモンドリアンは、1907年から1911年にかけて港町のドムブルフでファン・ゴッホやトーロップとしばしば顔を合わせていました。樹木、教会の塔、あるいは海岸の埠頭をモチーフとして描かれたこの時期の作品には、幅の広い分割された筆触が用いられています。次第にモンドリアンは色彩を、青、赤、黄といった原色、あるいは黒、白、グレーといった無彩色に還元して、色面をある種の形態としても扱うようになっていきます。色面の調和とバランスを普遍的な絵画原理とみなしたモンドリアンの新造形主義は、色彩の体系的な使用によって意図した調和に到達するという、新印象派の理想の究極の帰結としても位置づけられるでしょう。



19



20

4章

ベルギーとオランダの 分割主義

分割主義は、スーラの夭逝によりフランス国内での求心力を急速に失う一方、ヨーロッパ全土へと広く流布していきます。ベルギーとオランダは、その革新的な技法が最初に隆盛した国々です。1883年にブリュッセルで創設された芸術家グループ「20人会」は、早くも1887年にスーラの大作《グランド・ジャット島の日曜日の午後》を展示し、この地の画家たちに大きな影響を与えました。20人会の中心メンバーであるファン・レイセルベルヘやヴァン・ド・ヴェルド、トーロップは、分割主義に取り組んだ代表的な画家です。また、クレラー＝ミュラー夫妻のコレクション形成に指導的な役割を果たしたブレマーも、20人会の画家たちと交流し、自らこの技法を試みました。



15 テオ・ファン・レイセルベルヘ
《7月の朝（果樹園、あるいは果樹園に集う家族）》1890年 油彩/カンヴァス 115.5×163.5cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



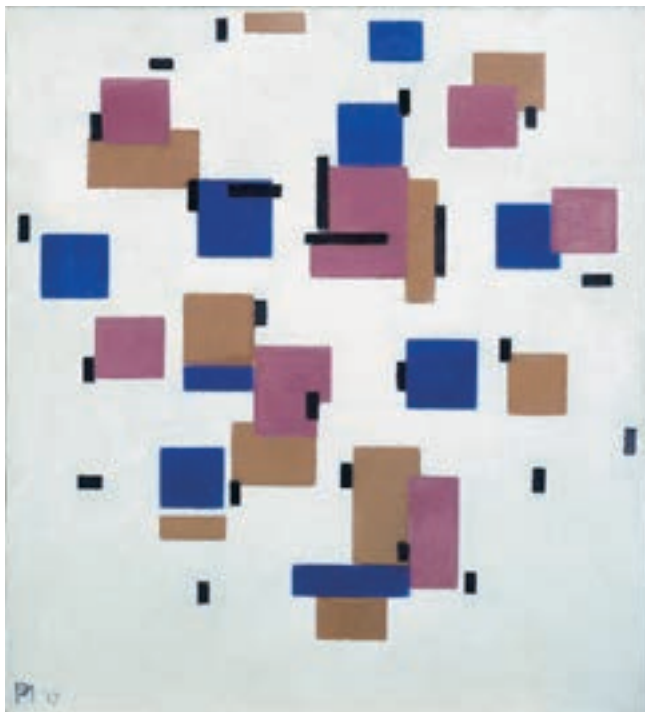
16 ヤン・トーロップ
《ストライキの後》
1889年頃 油彩/カンヴァス 65.0×76.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



17 アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド
《夕暮れ》
1889年頃 油彩/カンヴァス 45.2×60.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

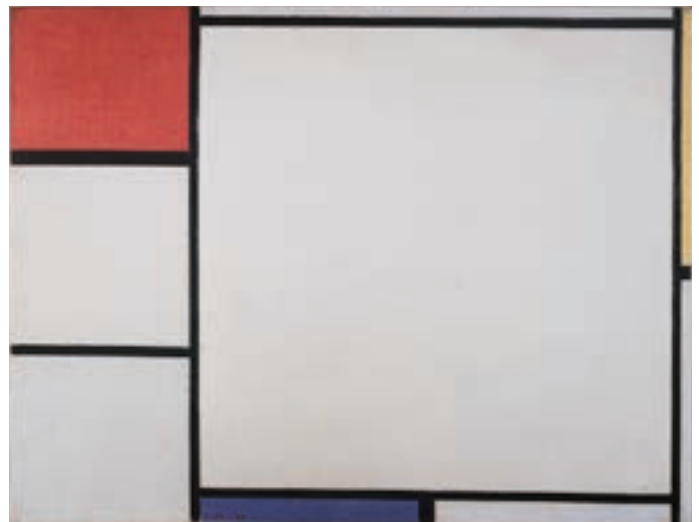


18 ヘンドリクス・ペトルス・ブレマー
《石炭入のある食器洗い場の踊り》
1899年 油彩/カンヴァス 38.5×26.0cm
クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands




21

- 19 ビート・モンドリアン 《埠頭の見えるドムブルフの浜辺》1909年 油彩/カンヴァス 33.0×43.2cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands
- 20 ビート・モンドリアン 《コンポジション No. II》1913年 油彩/カンヴァス 88.0×115.0cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands
- 21 ビート・モンドリアン 《色々のコンポジションB》1917年 油彩/カンヴァス 50.5×45.0cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands
- 22 ビート・モンドリアン 《赤と黄と青のあるコンポジション》1927年 油彩/カンヴァス 40.0×52.0cm
クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



22

モ
ン
ド
リ
ア
ン
ま
ま
で
ゴ
ッ
ツ
ホ
ス
ー
ラ
か
ら



Divisionism
from
Van Gogh
and Seurat
to Mondrian

ジョルジュ・スーラ《ポール＝アン＝ベッサンの日曜日》(部分) 1888年 油彩/カンヴァス 66.0×82.0cm クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に

**印象派を超えて
点描の画家たち**

2013年**10**月**4**日(金)～**12**月**23**日(月・祝)

新 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO **国立新美術館** 企画展示室1E [東京・六本木]